

令和7年度 藤枝順心中学校・高等学校 学校評価(前期)（評価基準　A:十分に実践されている　B:ある程度実践されている　C:不十分である　D:分からない）						
建学の精神　女性の自律・自主と先度他の心の涵養						
教育目標　白梅精神のもと、「清楚な生徒」、「芳香を発する生徒」、「忍耐のできる生徒」を育てる。						
本年度の重点目標　①積極的な情報発信　②危機管理意識の高揚　③順心の良さを小中学校にアピール　④生きる力の育成　⑤社会生活に適応する力の育成　⑥自己管理の育成　⑦第一志望校を目指させる指導						
重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
①積極的な情報発信	SNSの活用	(1) 具体的方策 Instagramでの情報発信を中心に、積極的な情報発信に努める。	A	・前期でのInstagramの投稿数は50回を超え、フォロワーは1000人を突破した。順調に数が伸びているので、今後も継続して新鮮な情報発信に努めていく。各学年によって投稿数にばらつきがあるので、積極的な呼びかけを続けていく。	A	・インスタをはじめとするSNSでの発信は大変有効なPRだと思います。学校の様子がわかりやすく掲載されているので、毎回楽しみにしています。中学生、保護者はSNSを通して高校を知る場合も多いと伺います。 ・注意すべきは個人情報だと思います。一人一人に承諾をとっていると思いますが十分注意が必要です。 ・個人の投稿で学校の情報をどこまで載せてよいかは、気になるところです。 ・フォームページの高校のイベント情報、部活動の案内が令和6年度になっている。令和7年度の情報に更新して欲しい。目新しく、確実な情報発信をお願いしたい。
		(2) 具体的指標 Instagramの投稿数が年間100回以上となることを目標にする。 100回以上　… A 75回以上　… B 75回未満　… C				
②危機管理意識の高揚	体験型防災訓練・不審者対策防犯訓練の実施	(1) 具体的方策 体験型防災訓練及び不審者対策防犯訓練を実施し、生徒及び職員の危機管理意識を高める。	B	・マンネリ化を防ぐために毎回少しずつ内容を変えて工夫している。今回は講師の先生方にも誘導を担当していただき、訓練としては意義があったように感じられる。ただ、今回の地震と後期の火災とで別々にアンケートを取って評価できるようにするべきであった。 ・台風後の施設の点検・清掃などを徹底するためには、日程を変更して朝のうちにできるような臨機応変な対応も必要である。	B	・防災、防犯訓練は実施に起こりそうな様々なことを想定して訓練する方が、生徒の危機管理意識が高まると思います。 ・学校にいる間に起こる可能性もあるので、安全を第一として対応して欲しい。 ・いざとなった時、地域から必要とされることも想定し、何をするのか、何ができるのか学ぶ機会を設ける必要があります。
		(2) 具体的指標 防災訓練及び防犯訓練後にアンケートを実施し、「役に立った」と感じる生徒・職員が80%以上を目標にする。 80%以上　… A 70%以上　… B 70%未満　… C				
③順心の良さを小中学校にアピール	学校訪問の数、学校説明会等への参加者数	(1) 具体的方策 ア 学校訪問の数を昨年より増やす。 イ 魅力ある説明会を開き、参加者を増やす。	A	・中学校や放課後児童支援施設へ行って、学校説明会を行った。中学生や先生方の評判も良かった。そのことが、体験見学会への参加人数に繋がっている。 ・精力的に塾を回っている。塾のスタッフに順心のことを知ってもらえるよう働きかけている。こうした活動が体験見学会の参加者増に繋がっている。 ・体験見学会では、先生方や在校生がよく動いてくれて、「笑顔で迎えて笑顔で返す」が実践できている。 ・昨年の取組みを振り返りながらより効果的な働きかけができるよう工夫してきたが、さらに想像力を働かせて本校に足を運んでいただけるように具体的な策を考え、実現させたい。 ・授業改善がどのように働きかければ進められるか考えたい。 ・学校訪問は年5回以上になると思われる。学校説明会の参加者は微増だが、オープンスクールの参加者は増えている。良さをアピールできるよう掲示物をなどを工夫したい。 ・調理室のキャパに限度があるため、各説明会等の上限人数生徒が30人、保護者を含むと60人で展開している。渉外の先生方のお陰で毎日満員のことが多く、入りきれない場合に残念ながら他のコースに移動していただくこともある。 ・渉外課の先生中心に良いイベントがたくさん行われ、参加生徒の反応もよかった。 ・体験見学会などは充実してきたが、中学校への訪問講座などで紹介がさらにできると良い。	A	・この項目は、今回が初めてだと思います。とても重要で、良い視点だと感じています。私学なので生徒にいかに入学してもらえるかにかかっていると思います。「先生方や在校生が～笑顔で迎えて、笑顔で帰す」実践はとても素晴らしいと思いました。 ・先生方の情熱を強く感じます。渉外活動、一層期待します。 ・小中学校へのアピールは最も有効に思われます。教職員の心身の活動力に感謝です。 ・遠慮せずに順心の良い所を大いにアピールして欲しい。世の中に出て、すぐに役立つ女性に育てている所は、他の学校に負けません、と。 ・体験会や説明会では、生徒の対応がとても良かったのを覚えています。 ・学校訪問で順心の良さをアピールし、学校説明会の参加者が増加しているようなので、興味を持っている小中学生が多くいることがわかりました。それぞれのスタイルの特色があるので、授業の見学や在校生と話をすることででも新たな情報を得ることができると思います。 ・「魅力のある説明会」ということですが、最近の保護者や生徒が考える「高校に求めるもの」と学校側の考える「期待されるもの」が一致しなくてはならないと思います。市場調査は大変難しいのですが、来校してくださった保護者、生徒、できれば全員と話をしてよく聞き出すことでしょうか。時間がかかりますが、地道な積み重ねが、未来の順心につながると思います。
		(2) 具体的指標 ア 学校訪問を年5回実施　… A 学校訪問を4回実施　… B 学校訪問を3回実施　… C イ 学校説明会参加者が昨年より増えた　… A 学校説明会の参加者が昨年と同じ　… B 学校説明会の参加者が昨を下回った　… C ※ 参加者 ＝ 保護者＋生徒				

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
④生きる力の育成	I C Tを活用した教育環境の整備	(1) 具体的方策 生徒が授業を通してタブレットを活用した教育活動に取り組める環境を整備する。	B	・デジタル教科書を活用して様々な活動を実践できた。Google Classroomでアンケートやテストなどを始め、生徒がプレゼンを編集するなど大いに活用できた。 ・スマホやタブレットを利用した授業を行うことができたが、まだ少ない。スマホやタブレットの活用方法を時間をかけてもっと勉強すべきだと感じている。 ・中学生の授業ではタブレットを使用して小テストを行ったり、課題を与えたりした。高校生の授業では資料を見るためや調べ学習等でタブレットを使用している。どちらもGoogle Classroomを活用しタブレットの使用が進んでいると考える。 ・9月26日（金）時点では全教員（非常勤講師含む）の36.7%が全授業の半数以上の頻度で生徒にスマホ・タブレットを使う場面を設けたという結果だった。	B	・学校でスマホ、タブレットを使った授業は、今後も進めていただきたい。宿題に関してはあまり身になっている気がしませんでした。 ・自分の孫を見ていて感じるのは、タブレット、PCで育った子どもは書く力が非常に劣っていると感じます。情報、知識のインプットには優れた機器ですが、アウトプットには適さないのか？とも感じます、学力はインプット、アウトプットの両方があってこそだと思いますので、タブレット中心にならないことを願います。 ・教員、生徒のタブレット使用のスキルアップが評価に結びついているように感じます。 ・スマートフォンやタブレットを活用することが目的ではなく、活用した結果どのような効果が得られたのか、ということが大切だと思います。良い結果が得られているようならば、教員間で差がないように活用していくべきだと思います。 ・授業改善は先生個人がその必要性を感じていれば心配はないと思いますが、そうでなければ、校内研修の充実をさせる以外ないと思います。はじめはかなり抵抗されると思いますが。
		(2) 具体的指標 生徒が授業中にスマートフォンやタブレットを使用する場面を担当する全授業に対して半数以上の頻度で設けることができた教員が 5割以上 … A 2割以上 … B 2割未満 … C				
	キャリア教育の充実	(1) 具体的方策 総合的な探究の時間で使用する探究プログラム（Inspire High）を活用し、生徒が自分の考えを論理的に整理し、他者に伝える力を養うことで、進路実現につなげる。	A	・Inspire Highを活用し、各自のプロジェクトに向かってリサーチし、スライドを作成することができた。プロジェクトは進路に関わることを選ぶ生徒も多かった。 ・クラスの生徒のプレゼンテーションを見たが、設定している課題や内容がそれぞれ進路に即していた。また、内容も意外と面白く良かった。 ・高校1年生の担当のため、まだ進路実現に直結していると感じることは少ないが、多くの著名人の話を聞き、学ぶものはあると考える。	A	・とても良い取り組みと思われます。生徒自身が様々な職種を知り得た上で、進路選択に重点を置いて学んで欲しい。 ・情報過多な時代ですが、有意義な情報やいろいろな意見が世界中から集まり、楽しそうだなと思いました。今後も活用していただきたい。 ・いろいろな人の話を聞くことで得られることがたくさんあったようです。 ・価値観や視野を広げ、他者の理解を深めるプログラムとして良いと思います。娘は進路実現に役立ったとはまだ感じていませんが、多くの著名人の話を聞くことは面白いから良いと言っていました。
		(2) 具体的指標 探究プログラム（Inspire High）が進学・就職試験のための準備に役立つ（高校3年生は実際に役立った）と思う生徒が 7割以上 … A 5割以上 … B 5割未満 … C				
⑤社会生活に適應する力の育成	「清楚・芳香・忍耐」の理解と実践	(1) 具体的方策 白梅精神に基づく教育目標「清楚・芳香・忍耐」の意味を理解させ、生徒一人ひとりが意欲的にとり組むことができるようにHRや「Fujieda junshin check」で振り返らせ、課題解決に導く。	B	・教育目標「清楚・芳香・忍耐」の理解を深めることが重要である。中には理解し、実践できている生徒もいるが、まだまだ徹底できていない。Fujieda junshin checkの項目の見直しや分析表の作成など、後期には生徒一人ひとりに浸透するように工夫したい。 数字だけにこだわるのではなく、生徒がHR活動や係活動に積極的に行動できるよう指導していくため、教員間の情報共有や共通認識を確認する。	B	・行事や学校に来た時など挨拶を良くしてくれ、一人一人が積極的に動いているところも良く見えます。 ・各家庭での指導のあり方にも注視していきたい。 ・順心生として身に付けて欲しいと願っている保護者は多いと思います。 ・⑤の項目は藤枝学園の顔です。生れてからずっと教えられ続けてきたわけではない生徒達ばかりでしょから、難しいでしょうが根気強く言い続けてください。これは“自分の為の学び”です。 ・生徒が考える「清楚・芳香・忍耐」とは何か？どうとらえているか？一度考える機会を持つことも必要だと思います。素晴らしい教育目標だからこそ、生徒達の疑問に対し、向き合うことも大切かと思います。（疑問に思う → 徹底できない）生徒一人一人が ①将来どのような人物になりたいのか？ ②その人物像になるのはどうしたら良いか？ ③お手本になる人物はいるのか？ 女性リーダーとしてあるべき姿を実践する場ととらえるのも良いかもしれません。 ・規則は規則として筋を通して指導してください。
		(2) 具体的指標 学期終了時に「Fujieda junshin chek」で自己評価させる。 「よくできた」「おおよそできた」と自己評価する生徒が 7割以上 … A 5割以上7割未満 … B 5割未満 … C				
	礼法を身につけた、あらゆる場面での実践	(1) 具体的方策 講話・礼法・学校の規則・社会的ルールについて理解させ、基本的生活習慣や自ら考える力を身につけさせる。	B	・講堂への移動は無言で移動するクラスもあり少し良くなってきた。 ・挨拶や一礼や黙想についてはまだできておらず、習慣化させていかなくてはならない。学校行事や係活動ではできている場面もあるため、場面に応じた行動をとれるよう指導を重ねたい。 ・教室の整理整頓もかなり良くなってきたが、まだ意識が低いクラスがあるように感じる。 ・校外のルールについては把握しづらいが、良識ある行動や判断ができる生徒を育てるために、どのような場面でどのような力をつけさせるのか、明確さも重要だと考える。	B	・礼法は社会へ出てからでもとても大事ですので、何回も注意して欲しい。整理整頓については、自分が生きていく上で一生必要なことですので、一人一人が意識して取り組んで欲しいです。 ・元気で積極的な面も必要で、場所、状況を考えて、判断し、実行できることが大切だと思います。それには、知っておくことが重要で、繰り返し教えることかと思います。 ・今の自分の行動から繋がるその先を想像して動く力、今後も引き続き指導して欲しいです。 ・娘を順心に通わせて一番良かったと思うことは、挨拶がきちんとできるようになったことです。礼法を身につけることは勉強や部活動、全てのことに繋がると思うので、私個人の意見としては厳しめにご指導いただきたいと思います。 ・社会的ルールや基本的生活習慣については、各家庭での指導が主になると思います。 ・講堂への移動時、生徒会役員が途中立って、指導、声掛けをしていく。
		(2) 具体的指標 講話・礼法・校内外のルールについて理解し、講話の聴き方や態度、また移動時の行動、社会的ルールが身についており、教室を学びの場所として整理整頓を心がけている。 8割以上できている … A 6割以上8割未満 … B 6割未満 … C				

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を 評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
⑥自己管理 の育成	健康相談 の充実と 情報共有	(1) 具体的方策 健康相談の充実を図り、生徒の支援を行 う。担任等と情報共有、必要に応じスクー ルカウンセラーとの連絡を密に行い、生徒 の学校生活がよりよいものとなるようにす る。	B	・Fujieda junshin checkで、先生に相談する生徒数は、前年度 とほぼ変わらない。また、学年によってばらつきもみられる。 引き続き、日頃の声掛けや変化を見過ごさない教員の観察力を 高めていきたい。 ・カウンセラーへの相談件数は増加傾向にある。スクールカウ ンセラーとの情報共有を密に行い、生徒対応に活かしていきたい。 また、2年や3年からの新規もあり、職員間の情報共有もより密 に行っていきたい。	B	・子供達との距離感も難しいと思います。年齢的にも難しい年頃のため、対応が難しいと思います。保護 者へのアンケートなども少し増やしていけるといいのかと思います。(家庭での様子など) ・教員と生徒が定期的に面談をする機会を設けて、その時にどんなことに悩み、困っているのか話すこと で、学校生活が豊かになっていくと思います。 ・生活習慣が大切に思われます。各家庭とも連絡を密に、注意喚起が必要に思われます。 ・家庭内での会話を意識的に増やすことが大切です。全てのことは家庭での取り組みが基本であり、学校 が代替できるものではありません。ただ、悩み多き時期でもありますので、学校側でできる範囲で 協力していただけることは、大変ありがたく感謝しています。 ・子供が学校生活や授業で思ったこと、改善して欲しい意見、聞いて欲しいけれどカウンセラーに相談す るほどではない気持ち(考え)などは、どこで、誰に話したら良いのか知りたい。 ・スポーツが盛んな学校なので、学校専属のトレーナーや病院が近くにあると良いと思います。
		(2) 具体的指標 学期終了時に生徒課の反省表「教育相談項 目」にて、教員（スクールカウンセラー 含）に相談できる生徒が 4 0 %以上 … A 1 0 %以上 4 0 %未満 … B 1 0 %未満 … C				
⑦第一志望 校を目指さ せる指導	【進学】 実績の向 上 & 学力の向 上	(1) 具体的方策 ア チューター制指導の充実 小論文と面接(志望理由書)で担当を分 ける。小論文は国語科以外の先生も得 意分野を担当する。 イ 看護医療系対策 ・看護模試の受験 ・1日ナース体験への参加 ウ 学習スペースの設置 職員室前東ロビーに机と椅子を設置 し、個別指導を受けられる環境にす る。	B	・チューター制指導が始まり、多くの先生方に協力いただき、 1人の先生に負担が偏ることなく、今まで以上に細かく担当者 を決めることができたので手厚く、継続的な指導が行えそうで ある。生徒にはスクラップノートを作成させた上で小論文や面 接指導を受けるようにさせる。国公立大学志望者が9名いるの で、目標達成に向けて指導していきたい。 ・さんぼうの看護模試は国公立大学の判定がでないので、今後検 討したい。看護志望者は一般まで挑戦させたい。 ・生徒の模試に対する意識の差がある。また、教科担当者による 対策にも差がある。進学指導課からも再度教科担当者に対策を 依頼する。上位者掲示でモチベーションを上げたい。 ・スタディサプリの配信は増えているが、受講の質を上げたい。 特進の週末課題のように確認テストも取り入れ、成果を把握す る。夏期講座で到達度テストの過去問題を取り入れたが、点数 向上に寄与したかは検証が必要。 ・進路室の整理ができた。今後は、難関大学受験者の出願書類や 試験問題などの資料を全職員が閲覧できると良い。職員室前の 学習スペースは涼しくなれば活用できると思われる。	B	・一年次から親子共大学への意識を高める。 ・進学率、どんな学校へというのは、世間が気にするところです。希望は高く持って、模試に積極的に取 り組んでもらいたい。 ・全ては家庭から……と申しましたが、家庭内でよく話し合い、本人に自立をうながし、将来の人物像 をえがかせる。先生方には、できるだけ早期の動機付け、また保護者への説明、対応をお願いしたい。 ・進学を選ぶ子供が増えている時代なので、週末課題や確認テストは中高全クラスでぜひ取り入れて欲し い。 ・小論文は、様々な知識がないと書くことができないので、スクラップノートは早くから取り組んだ方が 良いと思います。面接や志望理由書は計画を立てて、いつまでに、どこまでを目標にしていけるのか明確 にした方が良いと思います。国公立大学志望者が合格することができるよう、生徒のサポートを先生方 にお願いしたいです。 ・教員による熱意あるご指導に感謝です。
		(2) 具体的指標 ア 国公立大学に5名以上、中堅以上の私大 に10名以上合格させる。(中堅私大とは 河合塾全国偏差値47.5以上の大学とす る。) イ 模試で全国偏差値50以上の生徒をクラ スで特進は50%以上、総進は10%以上。 ウ 全学年、スタディサプリア到達度テスト 正解率60%以上 達成項目3つ … A 達成項目2つ … B 達成項目1つ以下 … C				
	【就職】 「自分で 選んで就 職先を決 めた」と 実感でき る指導	(1) 具体的方策 ア 3月末の合同企業説明会(県武道館)、 5月の企業説明会(本校)、6月のオンラ イン企業説明会(生徒個人)、昨年度の 求人票の提供などで生徒が企業情報を 入手できるようにする。 イ 求人票受付初日から求人票をWebで閲 覧できるようにする。 ウ 職種別の求人票一覧表を生徒に配布し て、自分が就きたい職種の求人票が見 られるようにする。	B	・企業情報の提供 3月上旬 校内企業説明会：6社 ・新3年生と新2年生の就職希望者全員が参加した。 3月下旬 合同企業説明会に参加 ・武道館で166社が集まり合同企業説明会が開催され新3年 生と新2年生合わせて21人が参加した。 5月 校内企業説明会：19社 ・3年生と2年生が希望する4社の説明を聞いた。 6月 オンライン企業説明会 ・延べ25人が参加したが、同じ生徒が複数回説明を受けてい た。 ・求人票の公開 ・7月1日の夜からその日に受領した求人票を毎日アップし た。 ・今年度から2年生も見られるようにした。 ・求人票の職種別一覧の作成 ・毎年、産業別の一覧表を作っているが、時間的にゆとりがな く、職種別一覧表はつくれなかった。 ・インターンシップ ・1年生4人が参加した。1人が2日間、3人が1日体験し た。 ◎自分で就職先を決めるという意識 ・夏休み就職活動で登校している生徒の話を聞くと、あまり自 分で調べることもしないで、家族などの意見に従って行動し ている生徒がいた。自分の意見をもたずに就職先を選ぶ生徒 の卒業後が心配になる。	B	・就職希望者が年々減っていますが、手厚く指導いただけたので、とても感謝しています。情報収集アン ケートはとても役に立ちました。 ・就職活動については、1年生から参加できると良いと思います。進学にもつながるのですが、どのよ うな企業のどんな仕事を目指すかの動機づけににもつながると思います。また、就職後に思っていた仕 事内容と異なると離職することがないように、何度も説明会に参加することが大切だと思います。 ・先生方に相談できたり、自分で求人を調べたりする時間を増やしても良いのかと思います。自分で決め られるよう、親子で説明を聞く時間があると良いと思います。 ・親の意見が強いなら自分で決めていないということですね。難しいことですが、最終的には本人の意志 を尊重して決定してほしい。 ・進学もさることながら、「就職の順心」も魅力的だと思います。意識を高く持って欲しいです。
		(2) 具体的指標 ア 就職内定者に対して就職に関する情報 収集量や就職活動に関する10項目のアン ケートを行う。 イ アンケートは就職希望者が全員内定し たら実施する。12月までに全員内定し なければ、1月に内定者だけでアンケ ートを実施する。 実感できた生徒が 9 0 %以上 … A 8 0 %～8 9 % … B 8 0 %未満 … C				